



Peinture de Picasso

PARIS 1917

Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二バレエ・コレクション
ピカソのバレエ・バレエのピカソ

vol.17

2009/4/16 (Thu.)～2009/5/13 (Wed.)

バレエ・リュスには時代を代表する芸術家たちが多数参加しましたが、ピカソもそうした一人でした。20代だったピカソの才能を見抜いたディアギレフは彼に舞台美術・衣装を依頼しました。そのみならず、バレエ・リュスのプログラムの表紙として彼の作品を使ったことは案外忘れてられています。

【ピカソ プロフィール】

パブロ・ピカソ (Picasso, Pablo 1881～1973)
スペインの画家・デザイナー。

1901年にパリで初めての個展を開催、1904年から洗濯船>に住みパリを創作の拠点としていた。バレエ・リュスとの仕事は「青の時代」「ばら色の時代」「キュビズムの時代」の後のことだった。1917年、初めてバレエ・リュスにて「バラード」を手がけ、翌年1918年にバレエ・リュスのダンサー、オリガ・ホフワと結婚。ピカソの最初の妻となった。

この後、バレエ・リュスのために全部で6作品のデザインを手がけた(そのうちの一つ「トレバック」は実際に上演されることはなかった)。

バレエ・リュスの解散後もバレエとの関わりは続き、1945年にはローラン・プティの「ランデヴェー」の背景幕、1960年にはセルジュ・リファール版「牧神の午後」の前幕、1962年には同じリファール版「イカール」の美術を手がけている。

【バレエ・リュスにおけるピカソ作品】

1917年5月18日 バラード(振付:レオニード・マシーン、台本:ジャン・コクトー、音楽:エリック・サティ、美術・衣装:パブロ・ピカソ)

1919年7月22日 三角帽子(振付:レオニード・マシーン、台本:マルティネス・シエラ、音楽:マニエル・ファリャ、美術・衣装:パブロ・ピカソ)

1920年5月15日 プルチネッタ(振付:台本:レオニード・マシーン、音楽:イゴール・ストラヴィンスキー、美術・衣装:パブロ・ピカソ)

1924年6月20日 青列車(振付:プロニスラワ・ニジンスカ、台本:ジャン・コクトー、音楽:ダリウス・ミヨー、美術:アネリ・マティス、前奏曲の間だけ使われる舞台幕:パブロ・ピカソ、衣装:ココ・シャネル)

1927年 メルクユール

(初演は1924年6月15日ソワレ・ド・パリにて)

その他:ランデヴェー(1945年、プティ振付、背景幕のみ)牧神の午後(1960年、リファール振付)、イカール(1962年、リファール振付)

薄井憲二バレエ・コレクション
ピカソのバレエ・バレエのピカソ

vol.17

Ballets designs by Picasso

2009/4/16 (Thu.)～2009/5/13 (Wed.)

出展リスト (作品・資料名/分類/年代/ほか)

◆バレエ・リュス公式プログラム パブロ・ピカソによる「三角帽子」衣装デザイン (プログラム[PRBROF-41]/1919年12月、1920年1月、2月/パリ オペラ座)
Programme Officiel des Ballet Russes, Costumes Dessin by Picasso, Pablo for "Tricorne"/1919/ Théâtre de l' Opéra, Paris /32.0×24.9 /p.60 (PRBROF-41)

◆バレエ・リュス公式プログラム 表紙:パブロ・ピカソ (プログラム[PRBROF-21]/1923年/パリ オペラ座)
Programme Officiel des Ballet Russes, "La Troup de Ballets Russes de Serge de Diaghilew", Cover Dessin & Costumes Dessin by Picasso Pablo /1923 /Theatre National de l' Opera /31.5 x 25.2 /p.40 (PRBROF-21)

◆バレエ・リュス公式プログラム 表紙:パブロ・ピカソ (プログラム[PRBROF-13]/1917年/パリ シャトレ座)
Official Programme des Ballets Russes Programme Paris, Cover Design by Picasso Pablo /1917 /Théâtre du chatelet, Paris /31.7×25.0 /p. 68 (PRBROF-13)

次回予告

薄井憲二バレエ・コレクション Vol.18

リファールの本棚

Lifar, Serge ~His writing works~

セルジュ・リファールはバレエ・リュス最後のスターとして輝かしい活躍をしました。バレエ・リュス解散後はパリ・オペラ座芸術監督としてその才覚を発揮し、教育や上演方法など現在のパリ・オペラ座の基礎となった改革を行いました。

その一方で多数の著作を残しているのは見落とされがちかもしれません。今回はそうした「筆者」としてのリファールに焦点をあててご紹介いたします。

(期間:2009/7/14～2009/8/16 於:2階共通ロビー)

◎企画・監修

芳賀直子(はが・なおこ/薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

Naoko Haga (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)